

地学実習

能登地震後の 海底コアサンプルの調査

R6.10.8

NANAOHIGHSCHOOL 七尾高校1年生



金沢大学

ロバートジェンキンス先生

研究室紹介

ジェンキンス研究室の専門分野は「古生物学」「地球生物学」「深海生物学」です。古生物学をベースにしつつ、化石と現生の両方扱いながら地球と生物の関係を明らかにすることを目指しています。特に地球と生命の関係の本質を探りたく、深海のメタン湧水や熱水などの地球内部と生物圏の接点に形成される「極限環境生物」の進化を研究しています。

(中略)

ようこそ、地球生物学の世界へ！
金沢大学ホームページより抜粋

はじめに

令和6年能登半島地震では、地震の揺れ・津波によって山・海岸に大きな変化がありました。七尾高校理数科1年生は、変化した海底を知るために、能登町の九十九湾で、海底のコアサンプルを採取し、標本を作り、調査実習を行いました。調査は金沢大学のロバートジェンキンス先生の指導のもと、金沢大学の実習船を利用させていただいています。

内容

・ 九十九湾

石川県能登町にある。イカの駅つくモールとイカキング、百楽荘などが有名である。能登半島地震では、岸壁が崩れたほか、発生した津波による被害を受けた。海底には当日に発生した砂や泥が降り積もっている。



Googlemap より



・ 海底の様子

通常、海底の砂は海の生き物によってかき混ぜられ、大きな砂の粒や小さな泥も均一になっている。しかし九十九湾は新たに堆積したので、砂と泥が分離し砂の上に泥が堆積した層を作っていた。サンプルに含まれる生物を調べることで、どこからやってきた砂泥かを判別できるかもしれない。またこれから回復していく生物の様子も、調査を継続すれば判明するはずである。

